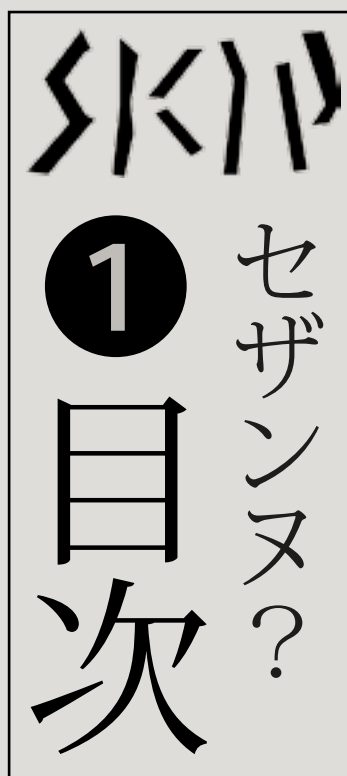


傷がついて音が飛んでしまうレコードが、その曲とは別の解釈を与えてしまったような・・・。

「SKIP」は小林丈人、戸谷森、忽滑谷昭太郎の3名の美術家による自主出版不定期誌です。従来からある分野、立場、年代という垣根を超え、芸術に関わるすべてを取り扱い、今ある限りのそれぞれの立場から可能性をできるだけたくさん見つけて発信していきます。

- | | | |
|----|---------|-----------------|
| 5 | 戸谷 森 | セザンヌの山の絵から |
| 10 | 小林 丈人 | 山とポール |
| 15 | 戸谷 森 | 私の中の私 |
| 26 | 小林 丈人 | 山とポール |
| 28 | 忽滑谷 昭太郎 | あの人の眼差し |
| 32 | | 山とポール |
| 34 | 小林 丈人 | 山とポール |
| 41 | 戸谷 森 | どうしても炭酸が飲みたい時の話 |
| 45 | 忽滑谷 昭太郎 | (与太話) リスナーの憂鬱 |
| 48 | | 後記 |





戸谷森

セザンヌの山の絵から



暇なときにはドライブをしたり散歩したりするのが癖だ。何か考え事したりするわけでもなくブーツと見慣れたような場所をウロウロする感じなので、散歩やドライブというよりは限りなく徘徊に近いのかもしれない。

目的地を決めるわけでもなく目の前の光景に反応しながら道を進んでいくだけだ。

何度も同じ所を通ったり、勘に任せて曲がったりする。

車の中では、だいたい「ナインティナインのオールナイトニッポン」を録音したものを聞いている。音楽は同じものを聞きすぎて、今はラジオの録音が一番良い。

ただ突発的にあの曲が聞きたいという気分になることがあるので、120ギガのiPodには音楽も入れていて、ラジオとだいたい半々で入っている。気に入っている回は、何回も聞いて話も覚えてしまっているし、飽きているのだけれど、それがまた心地よかったりする。生放送で話していた事も何回も聞いて覚えてしまおうと落語のような趣きがある。

録音だということを忘れていて、過去の地震速報に慌てて車を止めたこともあった。

ナインティナインは「岸和田少年愚連隊」を観た時から好きだ。この映画は最後まで観ても不良は不良のまま、ダメな奴はダメなままだ。途中で更正しかけるのだけれど、やっぱり元の場所に戻ってしまう。色々あるけれど何も変わってない。何かをやり遂げるわけでも成長するわけでもない。短い時間の間に起きる紆余曲折だけを描いている。

この映画の続きを観ているような気分です。「オールナイトニッポン」を聞いているのかもしれない。ナインティナインの会話には哀愁がただよっている。

そうやってラジオの録音を聞きながら風景が流れていくのを眺めている。

ボヤッと運転しているようだが、それは考え事をしていないということだ。目は信号が変わったとか、サイドミラーにバイクが映っているぞ、など忙しく動いている。左折の時は歩行者や自転車巻き込まないように注意、右折の時は対向車、そしてその陰にバイクがいるかもしれない、道路の脇に子供がいたら道に飛び出すかもしれないと、色々注意している。目は正面と左右をみて、たまにサイドミラーをチェック、バックミラーを

チェック、目は様々なチェックで忙しい。頭はボヤッとしているが目は集中している。目が集中しているから頭がボヤッとしているのかもしれない。

そうこうして、目的地もなくメチャクチャに進んでいると道に迷うこともある。普段は徒歩でも車でも、頭の中にある目的地までのルートの全体像と、目が察知する様々な情報とを連動させて行動していると思うのだが、ルートの全体像がボヤッとした状態なのだから当然といえば当然だ。

目的となるルートがないと個々の視覚情報はバラバラのままだ。それはまるでカエルや車や雲や花の大小の関係や置かれている位置の関係もメチャクチャな「脈絡の無い絵」もしくは「子供の絵」みたいな情報の在り方のようなだ。

一つ一つの情報を正確に再現できても、どのように周囲の事物と関係し接続しているのかを把握できないと「普通の西洋画」にはならない。目の前の光景は、常に不連続の様々な意味や情報と結びつくことで、風景として成立する。

今、眼球がとらえた光景も物の意味情報と連動して普通の視覚として成立している。そういう作業は脳みそがやってくれている。

